

◆ 2022 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 自然環境観察会

25A-17

代表者：代表理事 平井 一男

URL :<https://nature-garden-walk.jimdofree.com/>

1. 活動が必要とされた状況

都市近郊の大宮台地北部に「いやしの生物」回復を目指し、農地や庭の隅に生態補償地「緑のオアシス」を設け、昆虫、クモ、野鳥などの温存、および生物相を観察した。加須市の生態園では生物相解明の月例観察を継続した。以上の成果の広報および自然観察会、ワークショップを実施した。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- (1) 定例観察会：各地の緑のオアシス（4～12月）および県環境科学国際センター生態園（4～11月）で昆虫や鳥類の観察と保全を行った。延べ60名参加
- (2) 環境学習：3月オンライン講習会、5月オアシス観察とたき火（8名参加）、6月・11月上尾市環境パネル展（各100余名）、8月標本作り（50余名）、11月秋の観察会（20余名）、1月桶川生態補償地の管理（6名）。



桶川の生態補償地



1：春の観察と焼芋大会 2：上尾市環境パネル展 3：県活標本作り 4：上尾市秋の観察会 5：桶川生態補償地冬の管理

3. 活動の成果

- (1) 前年同様、上尾と桶川の2か所の生態補償地に寄主植物（ウマノスズクサなど）および蜜源を植え、観察した。桶川（農村）ではジャコウアゲハ、アオスジアゲハが定着した。またローズマリー、タチヤナギなどを植栽し昆虫、クモ類を保全した。上尾（都市）ではプラム、サクラなどでメジロ、ジョウビタキなどを、桶川では上記に加えヒバリ、チョウゲンボウなどを観察した。上尾ではジャコウアゲハは越冬しなかったのか、春以降発生しなかった。
- (2) 都市と農村の『緑のオアシス』の3年間の観察は全12目279種の昆虫、クモ類を記載した。全10目131種（全種数の47%）が保全候補に選定された。
- (3) 特記：保全種ジャコウアゲハなどの年次変動の解明が必要である。
- (4) 成果は、広報誌-16「生態補償地（緑のオアシス）づくり」、同-17「同～保全候補生物の選定と観察」を発行した。研究会誌、市の広報でも公表した。

4. 今後に残された課題

- (1) 緑のオアシスの植栽・除草、餌・蜜源植物の植栽を続け、生物多様性を安定させる。
- (2) 都市（住宅地）でジャコウアゲハが無発生になった原因の解明に着手する。
- (3) 生態園と各オアシスの生き物調査、データベース化および公開、環境学習を継続する。